

## 浜の活力再生プラン (第 2 期)

### 1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID : 1102010

組織名	小川原湖地域水産業再生委員会
代表者名	会長 濱田正隆

再生委員会の構成員	小川原湖漁業協同組合、東北町、小川原湖漁協蛭生産部会、小川原湖漁協船曳網部会、小川原湖漁協青年部、小川原湖漁協女性部、青森県三八地域県民局地域農林水産部八戸水産事務所
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	青森県東北町、三沢市、六ヶ所村、十和田市 しじみ漁業 10 経営体
-----------------------	--------------------------------------

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>小川原湖は、青森県南東部に位置する青森県最大の湖である。八甲田山系を源とするミネラル豊富な水が高瀬川を流れて流れ込む一方、太平洋から満潮時に海水が逆流して流れ込み、汽水湖という独特な生態系をつくる小川原湖は、多種多様な水産資源に恵まれ、中でもヤマトシジミ(以下シジミという。)、シラウオ、ワカサギは全国屈指の水揚げを誇り、古くから周辺地域の食と生活を支えてきたことから、住民からは「宝の湖」と呼ばれている。</p> <p>しかし、その「宝の湖」も近年は、長年にわたる生活排水、農・畜産排水の流入により富栄養化が進み、更には猛暑や豪雨などの異常気象により、水質に関連する各種障害が頻発し、資源・水揚量が減少傾向にある。また、消費・魚価の低迷に加え、燃油、資材等の漁業コスト上昇も重なり、漁業を取巻く環境は年々厳しさが増す状況となっている。</p>
---

#### (2) その他の関連する現状等

<p>近年は温暖化による異常気象が顕著となっている。特に小川原湖が位置する県南東部では夏場の低温と猛暑が交錯し、魚介類の産卵・生息環境に悪影響を及ぼしており、資源・水揚減少の要因となっている。</p> <p>また、漁業者の高齢化や少子高齢化に伴う消費人口の減少等で水揚・魚価ともに低迷が続く影響で、漁業離れが進み、漁獲量も年々減少している。更に、中東情勢による燃油、資材価格の高騰に加え、平成 31 年 10 月には消費税増税も重なり負担が一層重く押し掛かる状況にある。</p>
---

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域の生活や産業を支える「宝の湖 小川原湖」を、未来永劫にわたり伝統ある漁業を引き継ぎ、小川原湖の恵みを全国の消費者に届けるため、以下の事項について取組み、第1期浜プランに引き続き、漁業経営の安定と地域産業の活性化を目指す。

- ①シジミ漁業者は漁協と協力して、地理的表示保護制度（G I）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」を、人工種苗生産や産卵用親貝の保護区の設定によって安定的資源を確保しつつ、需要期に増産を図りながら漁業所得の向上に努める。
- ②シジミ漁業者は漁協と協力して、漁場耕うんによる魚介類の生息環境の改善や、水質悪化の原因でもある人工・自然ゴミの除去作業を積極的に推進し、水環境の改善を図る。
- ③漁協は、シジミの販売促進を図るため、県内外で開催される催事やイベント、更には海外での販路開拓も視野に商談会や食材提案会に積極的に参加し、認知度向上並びに販路・消費拡大を図りながら漁業所得の向上に努める。
- ④シジミ漁業者と漁協は、燃油消費量削減に向け、現状、使用する機関より低馬力省エネ機関への換装を推進するとともに、引続き、出港・帰港に至るまでの減速航行を指導し、燃油コスト削減を図る。
- ⑤漁協は、シジミ漁業者に対し漁業共済や漁業経営セーフティーネットへの加入促進を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

シジミ漁業は土、日曜、祝日、お盆、年末年始を除く、周年操業となっているが、市場・資源状況等ふまえ、自主的に休漁や漁獲調整を行うこともある。また、行使規則や細則等で操業方法、時間、採捕規格、使用漁具、採捕数量等を制限している。

※冬期間（1月～3月）は、強風雪や湖の結氷等による気象条件により、シジミ操業日数が制限

されることがある。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組みにより、基準年と比較して、漁業所得を4%向上させることを目標とする。</p> <p>① シジミ漁業者は漁協と協力して、シジミの種苗生産において、出荷シジミの中から、18.5 mm以上のサイズのを優先的に親シジミとして確保することで、年間300億個体以上の種苗放流を行う（資源量調査を行いつつ、必要に応じて放流量を増やすことを検討する）。</p> <p>また、シジミの自然産卵において、最も大事な親貝を確保するため、既存漁場に「産卵保護区」として禁漁期を設定するなど資源管理に努めるとともに、底質が硬化した漁場には噴流式マンガンを活用した耕耘活動など低利用漁場の機能回復による漁場拡大を図る。</p> <p>また、耕耘活動等により漂流・漂着した水草やゴミ等の除去作業を行い漁場機能を確保する。</p> <p>その他、地理的表示保護制度（GI）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」の品質確保に向けて、シジミの操業準備から市場搬入に至る作業ルールの徹底を図るため、年1回「基礎管理表」の配布と講習会を開催する。このような取組みを通じて、安定的な資源と品質が確保された「小川原湖産大和しじみ」を年間で最も需要が高く高価格で取引される7月と1月に増産を図り、漁業所得の向上に努める。</p> <p>② シジミ漁業者と漁協は、県内外で開催する催事やイベントに参加することを通じて、「小川原湖産大和しじみ」の優位性（GI登録やトレーサビリティシステムのもと、産地・生産者・買受人が明確化され、また、シジミ専用の市場で品質がチェックされるため、品質にばらつきがなく安定した品質を維持できるとともに、外国産など他産地シジミの混入を厳格に規制）をアピールしながら、小川原湖産品の販売促進に向けて一層のPRに取り組むとともに、成長著しいアジア圏内を中心に、現地商談会や食材提案会に出展し、PR活動を通じて販路の開拓・拡大を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>① シジミ漁業者は、出港から帰港まで、船外機の回転数を落として減速航行を徹底し、燃油消費量の軽減を図るとともに、軽減効率を高めるため、低馬力省エネ機関への換装を推進する。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業（国） 東北町単独補助事業（町）

2年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組みにより、基準年と比較して、漁業所得を5%向上させることを目標とする。</p> <p>① シジミ漁業者は漁協と協力して、シジミの種苗生産において、出荷シジミの中から、18.5 mm以上のサイズのを優先的に親シジミとして確保することで、年間300億個体以上の種苗放流を行う（資源量調査を行いつつ、必要に応じて放流量を増やすことを検討する）。</p> <p>また、シジミの自然産卵において、最も大事な親貝を確保するため、既存漁場に「産卵保護区」として禁漁期を設定するなど資源管理に努めるとともに、底質が硬化した漁場には噴流式マンガンを活用した耕耘活動など低利用漁場の機能回復による漁場拡大を図る。</p>
--------------	--

	<p>また、耕耘活動等により漂流・漂着した水草やゴミ等の除去作業を行い漁場機能を確保する。その他、地理的表示保護制度（G I）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」の品質確保に向けて、シジミの操業準備から市場搬入に至る作業ルールの徹底を図るため、年1回「基礎管理表」の配布と講習会を開催する。このような取組みを通じて、安定的な資源と品質が確保された「小川原湖産大和しじみ」を年間で最も需要が高く高価格で取引される7月と1月に増産を図り、漁業所得の向上に努める。</p> <p>② シジミ漁業者と漁協は、県内外で開催する催事やイベントに参加することを通じて、「小川原湖産大和しじみ」の優位性（G I登録やトレーサビリティシステムのもと、産地・生産者・買受人が明確化され、また、シジミ専用の市場で品質がチェックされるため、品質にばらつきがなく安定した品質を維持できるとともに、外国産など他産地シジミの混入を厳格に規制）をアピールしながら、小川原湖産品の販売促進に向けて一層のPRに取組むとともに、成長著しいアジア圏内を中心に、現地商談会や食材提案会に出展し、PR活動を通じて販路の開拓・拡大を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	① シジミ漁業者は、出港から帰港まで、船外機の回転数を落として減速航行を徹底し、燃油消費量の軽減を図るとともに、軽減効率を高めるため、低馬力省エネ機関への換装を推進する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業（国） 東北町単独補助事業（町）

3年目（平成33年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組みにより、漁業所得を基準年の6%の所得向上を目標とする。</p> <p>① シジミ漁業者は漁協と協力して、シジミの種苗生産において、出荷シジミの中から、18.5 mm以上のサイズのを優先的に親シジミとして確保することで、年間300億個体以上の種苗放流を行う（資源量調査を行いつつ、必要に応じて放流量を増やすことを検討する）。</p> <p>また、シジミの自然産卵において、最も大事な親貝を確保するため、既存漁場に「産卵保護区」として禁漁期を設定するなど資源管理に努めるとともに、底質が硬化した漁場には噴流式マンガン等を活用した耕耘活動など低利用漁場の機能回復による漁場拡大を図る。</p> <p>また、耕耘活動等により漂流・漂着した水草やゴミ等の除去作業を行い漁場機能を確保する。その他、地理的表示保護制度（G I）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」の品質確保に向けて、シジミの操業準備から市場搬入に至る作業ルールの徹底を図るため、年1回「基礎管理表」の配布と講習会を開催する。このような取組みを通じて、安定的な資源と品質が確保された「小川原湖産大和しじみ」を年間で最も需要が高く高価格で取引される7月と1月に増産を図り、漁業所得の向上に努める。</p> <p>② シジミ漁業者と漁協は、県内外で開催する催事やイベントに参加することを通じて、「小川原湖産大和しじみ」の優位性（G I登録やトレーサビリティシステムのもと、産地・生産者・買受人が明確化され、また、シジミ専用の市場で品質がチェックされるため、品質にばらつきがなく安定した品質を維持できるとともに、外国産など他産地シジミの混入を厳格に規制）をアピールしながら、小川原湖産品の販売促進に向けて一層のPRに取組むとともに、成長著しいアジア圏内を中心に、現地商談会や食材提案会に</p>
--------------	---

	出展し、PR活動を通じて販路の開拓・拡大を図る。
漁業コスト削減のための取組	① シジミ漁業者は、出港から帰港まで、船外機の回転数を落として減速航行を徹底し、燃油消費量の軽減を図るとともに、軽減効率を高めるため、低馬力省エネ機関への換装を推進する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業（国） 東北町単独補助事業（町）

#### 4年目（平成34年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の取組みにより、漁業所得を基準年の8%の所得向上を目標とする。</p> <p>① シジミ漁業者は漁協と協力して、シジミの種苗生産において、出荷シジミの中から、18.5 mm以上のサイズのことを優先的に親シジミとして確保することで、年間300億個体以上の種苗放流を行う（資源量調査を行いつつ、必要に応じて放流量を増やすことを検討する）。</p> <p>また、シジミの自然産卵において、最も大事な親貝を確保するため、既存漁場に「産卵保護区」として禁漁期を設定するなど資源管理に努めるとともに、底質が硬化した漁場には噴流式マンガン等を活用した耕耘活動など低利用漁場の機能回復による漁場拡大を図る。</p> <p>また、耕耘活動等により漂流・漂着した水草やゴミ等の除去作業を行い漁場機能を確保する。その他、地理的表示保護制度（GI）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」の品質確保に向けて、シジミの操業準備から市場搬入に至る作業ルールの徹底を図るため、年1回「基礎管理表」の配布と講習会を開催する。このような取組みを通じて、安定的な資源と品質が確保された「小川原湖産大和しじみ」を年間で最も需要が高く高価格で取引される7月と1月に増産を図り、漁業所得の向上に努める。</p> <p>②シジミ漁業者と漁協は、県内外で開催する催事やイベントに参加することを通じて、「小川原湖産大和しじみ」の優位性（GI登録やトレーサビリティシステムのもと、産地・生産者・買受人が明確化され、また、シジミ専用の市場で品質がチェックされるため、品質にばらつきがなく安定した品質を維持できるとともに、外国産など他産地シジミの混入を厳格に規制）をアピールしながら、小川原湖産品の販売促進に向けて一層のPRに取組むとともに、成長著しいアジア圏内を中心に、現地商談会や食材提案会に出展し、PR活動を通じて販路の開拓・拡大を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	① シジミ漁業者は、出港から帰港まで、船外機の回転数を落として減速航行を徹底し、燃油消費量の軽減を図るとともに、軽減効率を高めるため、低馬力省エネ機関への換装を推進する。
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業（国） 東北町単独補助事業（町）

#### 5年目（平成35年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより、漁業所得を基準年の10%の所得向上を目標とする。</p> <p>① シジミ漁業者は漁協と協力して、シジミの種苗生産において、出荷シジミの中から、18.5 mm以上のサイズのを優先的に親シジミとして確保することで、年間300億個体以上の種苗放流を行う（資源量調査を行いつつ、必要に応じて放流量を増やすことを検討する）。</p> <p>また、シジミの自然産卵において、最も大事な親貝を確保するため、既存漁場に「産卵保護区」として禁漁期を設定するなど資源管理に努めるとともに、底質が硬化した漁場には噴流式マンガンを活用した耕耘活動など低利用漁場の機能回復による漁場拡大を図る。</p> <p>また、耕耘活動等により漂流・漂着した水草やゴミ等の除去作業を行い漁場機能を確保する。その他、地理的表示保護制度（GI）登録を受けた地域ブランド品である「小川原湖産大和しじみ」の品質確保に向けて、シジミの操業準備から市場搬入に至る作業ルールの徹底を図るため、年1回「基礎管理表」の配布と講習会を開催する。このような取組みを通じて、安定的な資源と品質が確保された「小川原湖産大和しじみ」を年間で最も需要が高く高価格で取引される7月と1月に増産を図り、漁業所得の向上に努める。</p> <p>② シジミ漁業者と漁協は、県内外で開催する催事やイベントに参加することを通じて、「小川原湖産大和しじみ」の優位性（GI登録やトレーサビリティシステムのもと、産地・生産者・買受人が明確化され、また、シジミ専用の市場で品質がチェックされるため、品質にばらつきがなく安定した品質を維持できるとともに、外国産など他産地シジミの混入を厳格に規制）をアピールしながら、小川原湖産品の販売促進に向けて一層のPRに取組むとともに、成長著しいアジア圏内を中心に、現地商談会や食材提案会に出展し、PR活動を通じて販路の開拓・拡大を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① シジミ漁業者は、出港から帰港まで、船外機の回転数を落として減速航行を徹底し、燃油消費量の軽減を図るとともに、軽減効率を高めるため、低馬力省エネ機関への換装を推進する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産多面的機能発揮対策事業（国） 東北町単独補助事業（町）</p>

(5) 関係機関との連携

取組み効果が十分発揮できるよう、行政機関（青森県（水産振興課、八戸水産事務所）、東北町）から指導を頂き、年度毎の事業の進捗状況等を精査し、問題点や解決方法を整理した上で、所得向上実現に向けた取組みを推進する。

4 目標

(1) 所得目標

<p>漁業所得の向上10%以上</p>	<p>基準年</p>	
	<p>目標年</p>	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

7月及び1月のシジミの 漁獲量	基準年	平成30年度：7月35kg／人・日 1月35kg／人・日
	目標年	平成35年度：7月55kg／人・日 1月40kg／人・日

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

※参考資料1, 2を参照。
---------------

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮 対策事業（国）	底質硬度等による低利用漁場の改善、漂流・漂着する人工・自然ゴミ除去による負荷軽減
東北町単独補助事業 （町）	シジミの100億個体以上の大規模人工種苗生産（稚貝生産・放流）によるシジミ資源の維持・増大